

# J-PARC NEWS

Japan Proton Accelerator Research Complex

大強度陽子加速器施設

平成25年6月6日発行

発行元: 日本原子力研究開発機構・高エネルギー加速器研究機構

J-PARCセンター

〒319-1195 茨城県東海村白方白根2-4 Tel: 029-284-3731

## J-PARCハドロン実験施設における事故について

J-PARCでは、5月23日、50GeVシンクロトロン of ビーム取り出し装置の誤作動により、陽子ビームが想定を超えた短時間に集中してハドロン実験施設の金標的に照射されました。その結果、標的が高温となり、その一部が破損し放射性物質が飛散した可能性があり、生成された放射性物質がハドロン実験施設内に漏えいし、同施設内で実験作業中であった研究者等多数の方が内部被曝を受けました。

また、実験ホール上部に設置してある排風ファンを稼働したことにより、放射性物質を施設周辺に漏えいさせる結果となりました。原子力科学研究所周辺に設置されているモニタリングポスト等の線量率は通常の変動範囲内であったものの、核燃料サイクル工学研究所のモニタリングポスト(2箇所)及びモニタリングステーション(1箇所)においては、通常の変動範囲を超える一時的な線量率の上昇が確認されました。環境へ放出された放射性物質を評価した結果、ハドロン実験施設からほぼ西方向の狭い範囲に拡散し希釈されたことがわかりました。放射性物質放出に伴う最大線量はハドロン実験施設に最も近い事業所境界でも法令に定める年線量限度に比べて十分に低いことが確認されております。

今回の事故についての調査、確認、判断の遅れにより、周辺地方公共団体および関係省庁等への通報連絡が大きく遅れ、関係者の皆さま、周辺住民の皆さまに大変なご迷惑とご心配をおかけいたしましたこと、深くお詫び申し上げます。

J-PARCとしては、あってはならない事故であり、社会的かつ道義的責任を重く受け止めております。これまで多くの方に、最先端のサイエンスの創造を目指してJ-PARCプロジェクトへの期待と支援を頂いてきました。失われた信頼を取り戻すために、もう一度原点に立ち返り、関係各省庁の指導のもと、日本原子力研究開発機構、高エネルギー加速器研究機構と共に、J-PARCセンター総力をあげて、事故の原因究明と再発防止に取り組み、一日も早い信頼回復に努めていく所存です。

平成25年5月31日

J-PARCセンター長 池田 裕二郎